

加悦椿文化資料館

加悦椿文化資料館は千年ツバキの里のシンボルとして、椿の花弁の形を模した、非常にユニークな外観で平成8年4月に開館しました。

当資料館では京都府指定文化財「滝のツバキ」の案内を行うとともに、展示室では「滝のツバキ」に隣接していた大田和集落の暮らし等を紹介するほか、「滝のツバキ」の鑑定者であり日本ツバキ協会名誉会員の渡邊武博士より寄贈された、数多くの椿にまつわる美術工芸品などを展示しています。

また、椿の種類や歴史などが学べる学習コーナーを設置し、夏期には椿の挿し木体験教室等も行い、さまざまな角度から「ツバキ」を学ぶことのできる資料館をめざしています。



展示室1

収蔵する椿に関する美術工芸品を展示するほか、椿の開花の季節には企画展示も行っています。



展示室2



椿油絞り機



■平面図

エントランスホール

版画家、木村光佑の手によるホーロー製の巨大な椿壁画がみなさまをお迎えします。



茶室コーナー

「ツバキが見てきた人びとの暮らし」

京都府指定文化財「滝のツバキ」の付近には、かつて大田和という小さな集落があり、人々の暮らしがありました。

大田和の歴史は古く、集落西側には中世期の城跡が残っています。

江戸時代、元禄10年(1697)作成の村々明細帳には「大たわ村」としてその地名が初めて登場します。現在大田和に至る谷筋は植林に覆われていますが、この一帯はもともと開墾された棚田で、当時は水田耕作が盛んに行われていました。「滝のツバキ」の幹に田を耕す牛が繋がれることもあったといわれています。

こうした生活は昭和30年代に離村するまで数百年も続きました。その後、放棄された棚田に植林が進み、現在のような姿になっていきました。

ほんの50年ほど前まで、ツバキは人々の暮らしを見つめてきたのです。

昭和30年代の大田和



「日本のツバキ園」



隣接するこのツバキ園は、当資料館の開館を記念して整備されました。

全国の椿愛好家のみなさんと交流を深めていくためのシンボルとして、椿を市町村の花木に指定する全国49市町村から寄贈された49株の椿と与謝野町の「滝のツバキ2世」を合せた合計50株が植樹されています。

椿の咲く時期には、日本全国の椿を一堂に楽しめるスポットとして親しまれています。

「滝のツバキ」及び「加悦椿文化資料館」とあわせてお楽しみください。



京都府指定文化財 滝のツバキ



平成 20 年(2008)4 月 14 日撮影

■「滝のツバキ」のある与謝野町は、京都府北部の日本海に面した丹後半島にあります。

丹後地域は国特別名勝の天橋立をはじめ、海岸と美しい海、大江山の鬼伝説、古代丹後王国などのすばらしい自然環境や歴史・文化に彩られた景観の豊かな土地で、平成 19 年(2009)8 月 3 日には「丹後天橋立大江山国定公園」に指定されました。



平成 20 年(2008)4 月 14 日撮影

■滝のツバキは、この国定公園の大江山連峰地区江笠山山系中、府道沿いの奥滝集落から南へ約 1.5km 山道をたどった山林の中にあります。通称を千年椿といい、最長寿級の椿のひとつと言われる巨樹です。例年 3 月下旬から 4 月上旬に開花し、黄色の葯(やく)を紫紅色の一重の花弁が囲む花様は、改良の進んだ園芸種とは異なり、原種のもつ簡素な趣があります。

